

## 1 学びプランについて

「千代中学びプラン」は、学習指導要領に示されている目標や内容に基づき、学習目標を実現するための学習活動を検討し、1年間の学習計画として示したものです。単元（学習のまとまり）の学習を終えて、何ができているのかという姿を具体的に想定したものです。そして、単元の学習を終えた時にその力が身についているかどうかを見取る（評価する）ために、どのような方法を用いるのかを観点ごとに示しています。

学びプランは、1年間の学習計画を簡潔にまとめられています。生徒には、単元ごとに「単元計画」を提示し、単元の学習計画や身につける力をより詳しく説明していきます。学びに必要な授業時数や課題、教材、評価等について、単元計画ではさらに具体的にすることで、生徒は見通しをもって学びやすくなり、単元末で振り返りの時間を設けるので、日々の学習へ向かう姿勢（粘り強さ）も向上することも期待できます。また、単元の振り返り（単元テスト等）を、どのタイミングで、どのような形式で行うかということも「単元計画」で伝えていきます。

## 2 学習指導要領のポイント

### 新しい時代に必要となる資質・能力（3つの柱）

知識及び技能 何を理解しているか 何ができるか
-------------------------------

思考力・判断力・表現力等 理解していること・できる ことをどう使うか
------------------------------------------

学びに向かう力、人間性等 どのように社会・世界とかわり、よりよい人生を送るか
-------------------------------------------

・平成29年に学習指導要領が改定され、中学校では令和3年度から全面实施となりました。これに伴い、「観点別学習状況の評価」の観点が次のように整理されました。前学習指導要領の4つの観点（国語科は5つ）が、全ての教科で3つの観点になりました。

### 観点別学習状況評価の各観点（評定へ総括する評価）

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
技能
知識・理解



知識及び技能
思考力・判断力・表現力
主体的に学習に取り組む態度

### 個人内評価

人間性等 ※観点別学習状況の評価・評定にならない部分
-------------------------------

知識及び技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況。それらを既にある知識や技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得しているか。
思考力・判断力・表現力	知識や技能を活用して課題を解決する等、必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているか。
主体的に学習に取り組む態度	知識や技能の習得や、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするため、自分の学習状況を把握して学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか。
人間性等	観点別学習状況の評価や評定には示しきれない「感性、思いやりなど」、生徒一人ひとりのよき点や可能性、進歩の状況の「個人内評価」

### 3 観点別学習状況の評価について

単元ごとの学習の目標（規準）に照らし合わせて、どこまで目標が達成できたのかを観点別に評価します。

AO	十分満足できると判断できるもののうち、特に程度の高いもの
A	十分満足できると判断されるもの
B	おおむね満足できると判断されるもの
CO	努力を要すると判断されるもの
C	一層努力を要すると判断されるもの

### 4 観点別学習状況の評価から評定へ

単元ごとの学習の積み重ね、前期と後期の評定を出します。評定については、観点別学習状況の評価（AO=5点、A=4点、B=3点、CO=2点、C=1点）から計算し、その合計値で評定を出します。

組み合わせの代表例	合計値	評価と評定
AO AO AO	15点	評定=5 (15点~14点)
AO AO A	14点	十分満足できると判断されるものうち、特に程度の高いもの
AO AO B	13点	評定=4 (13点~11点)
A A A	12点	十分満足できると判断されるもの
AO B B	11点	
A B B	10点	評定=3 (10点~8点)
B B B	9点	おおむね満足できると判断されるもの
B B CO	8点	
B CO CO	7点	評定=2 (7点~5点)
CO CO CO	6点	努力を要すると判断されるもの
CO CO C	5点	
CO C C	4点	評定=1 (4点~3点)
C C C	3点	一層努力を要すると判断されるもの

### 5 今年度の定期テスト・実力テストの予定

	1、2年生	3年生
前期定期テスト	9月10日、11日（5教科）	6月18日、19日（5教科）
後期定期テスト	2月6日、7日（5教科）	11月7日、8日（5教科）
実力テスト	11月11日、2月26日（5教科）	11月11日、1月15日（5教科）

・定期テストは2回になりますが、各教科で単元ごとにテスト等を実施します。

## 学習評価について

### 《評価の目的》

学習評価は評定の成績を確認するためだけでなく、自分のよい点や進歩の状況などを積極的に確認し、学習したことの意味や価値を実感できるようにすることさらに目標や課題をもって学習を進めていくようにすること（学習改善）を目的としています。



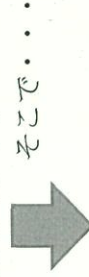
評価によって生徒自身が自ら学習を振り返って次の学習に向かうことができることが大切！

従来の振り返りは、

定期テスト後に反省

→ テスト範囲には今まで学習してきた複数の単元が含まれているので、単元を遡るほど学習直後の記憶が薄れ、内容の振り返り効果が上がりにくい。また、定期テスト実施の時点で、すでに新しい単元学習が始まっているので、意欲的に振り返ろうという意識になりにくい。

→ 前期や後期の成績が出た時 → 年間の半分の学習が終わっているため、振り返りや反省等が単元ごとに行いにくく、改善するにも時間が経ちすぎている上に、改善の余地が大きい場合は諦めがちになってしまう。（次の学習への意欲につながりにくい）また、その時点で新しい単元の学習も進行しているので、復習する気が起きにくい！



そこで・・・

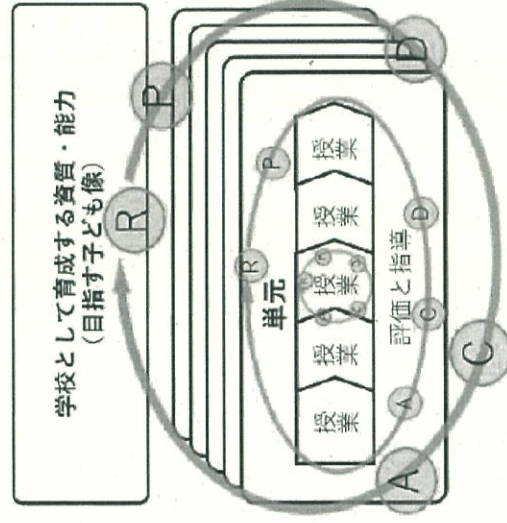
千代中学校では比較的小さい範囲で学習状況を確認できるように、学習内容のままとりごとに課題や振り返り、小テスト（単元テストなど）を実施しています。（したがって、小テスト等の頻度が高いため、生徒の負担を考慮して令和3年度から定期テストを年間4回から2回に減らしています）

- 【単元はじめ】単元の学習計画・評価計画を受け取り、**見通し**を持つ → **日々の学習**に取り組む
- 【単元末】課題・振り返り・小テスト・評価票等返却 → 自分の理解度を把握し**学習改善**を考える
- 【次の単元】単元の学習計画・評価計画を受け取り、**見通し**を持つ  
前の単元で考えた**学習改善**を行いながら、次の単元の**日々の学習**を進める  
（・・・くり返し・・・）

→ 各単元の総括として定期テストに臨む

したがって、定期テストは年間2回ですが、その分、年間を通して、短い期間での確認や振り返り、小テストや提出物等があるため、単元の小テストなどは増えています。

定期テストの1週間前だけあわてて勉強するのでなく、毎日コンスタントに少しずつ勉強して学習の習慣をつけていくこともねらいの一つです。



《学習成績について》

前期、後期といった大きい範囲ではなく、学習内容ごとの小さな範囲で学習状況を確認できるように、学習内容のまとまりごとにより自己の学習成果がわかる評価票等を配付します。

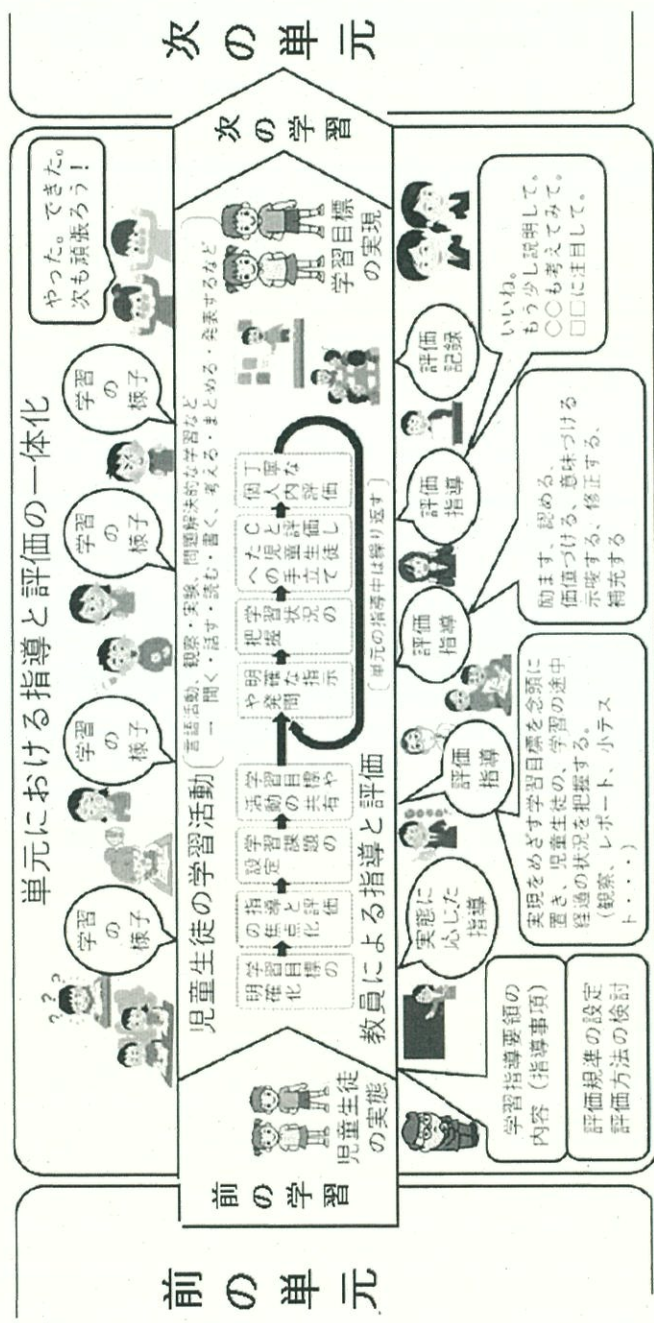
評価票等を分析 → 自分の理解度を把握・改善していく → 次の学習に生かす → ……くり返し → 前期の成績

評価の目的は、生徒自身が自ら学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることなのです！！

学習指導要領は、各教科における観点別学習状況の評価の観点が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点になっています。

評価の観点	評価方法の例
知識・技能	ペーパーテスト、文章による説明、式やグラフによる表現観察・実験など
思考・判断・表現	ペーパーテスト、論述、レポート、発表、班での話し合い作品の制作など
主体的に学習に取り組む態度	ノートやレポートの記述、授業中の発言、行動観察振り返りシートなど

各教科で学習のまとまりごとに評価票等が出され、どのような学習状況であったのかが確認できるようにしています。



前の単元

次の単元